

OPDES フリースタイル規定書

改定:2018年4月1日より

ミュージカルフリースタイル Musical Free Style (略号:MF)

犬とハンドラーが調和の取れたステップ、ムーブ、演技、振り付けなどを音楽にのせてより美しく芸術的に表現する。パートナーである犬にとって、肉体的な痛みや怪我の原因とならない限りにおいて、どのような動きも使う事が出来る。競技において総合点が同じ場合は、芸術点の高い方が上位となる。

ヒールワーク トゥ ミュージック Heelwork to Music (略号:HTM)

主にハンドラーと犬の正確なポジションやムーブを、調和のとれた美しいステップラインで技術的に表現する。競技において総合点が同じ場合は、技術点の高い方が上位となる。

ヒールワーク トゥ ミュージックの概要

- 演技開始後の 10 秒間に、犬が維持したポジションをヒールワークポジションとして定義する。
- 犬がその場でのスピンの必要とする空間を目安として、全ての競技をこなす。(演技空間)
- ジャンプは禁止
- 演技空間内である限り、後ろ脚で立っての演技は許容されるが、後ろ足でのジャンプは禁止とする。
- ハンドラーの足の間を犬がくぐる動きに関しては、ポジションチェンジの為の動きとして、3度まで採用する事が出来るが、ウィーブを思わせるような連続使用は認めない。
- 股下を利用してのポジションチェンジの件:次のHTMムーブに移行する為に、必要かつ有効であると(注)判断出来るポジションチェンジ時のみの使用を許可し、原則的に脚間および股下での演技は禁止とする。それ以外の偶発的な予期せぬ使用が生じた場合は減点の対象とする。(注)直後に必ず OPDES 規定のヒールワークムーブ(各ポジションでの 5 歩以上の 4 足連続歩行)を使用する事。
(「フリースタイル競技規定の改正及び補足について」2013年6月より)
- 股下をポジションとしては認めませんが、股下の演技(ウィーブなど)を認める事とします。(2018年4月より)

「OPDESのHTMの解釈補足」

OPDES では、すべてのポジションについて、正確に維持した状態でハンドラーが 5 歩以上歩き、その間、犬は4足歩行を行うことをヒールワーク作業と定義し、ヒールワーク作業が70%以上で構成されたルーティンを奨励しています。

※HTM のポジションの解釈を下記の通り、16 ポジションと限定します。

← (犬) ○ (ハンドラー)

※ HTM におけるポジションの必須採用条件について

ビギナークラス	2 ポジション以上
ノービスクラス	3 ポジション以上
インターメディアイトクラス	4 ポジション以上
アドバンスクラス	5 ポジション以上

クラスについて

スタイル	部門	クラス	備考			
ミュージカル フリースタイル (略号:MF)		イノベーション	正式競技ではありませんが、全てのカテゴリーの重複出陳が可能です。モチベーター(遊具・トリーツ等)の使用やリードの装着を認めます。演技中にモチベーター(トリーツ)を与えても構いませんが(トリーツを落とさないように注意して下さい)、リード等の直接的な使用は禁止となります。(イノベーションクラスは全ての競技終了後に行います。ジャッジシートはありません。)			
		スターター	正式科目では無く、競技会によっては採用しない場合があります。HTM・MFの区別、またシングル・ペアー等の部門分け等を行わず審査させていただきます。モチベーター(トリーツ、おもちゃなど)を持って演技することが出来ますが、使用は禁止です。表彰においては順位を付けず特別表彰を行い、ジャッジシートをお渡ししています。			
ヒールトゥ ミュージック (略号:HTM)	レギュラー	サッシーシニア	ハンディダンディ	ジュニア	ビギナー (QF は、70%以上)	ビギナーA ; ビギナーB A:ハンドラーも犬も初めての出場 B:犬のみ初出場
					ノービス (QF は、80%以上)	ビギナーで 70 パーセント以上の得点を 2 度達成したペア及びチーム TT1の資格が必要
					インターメディエイト (QF は、90%以上)	ノービスで 80 パーセント以上の得点を 3 度達成したペア及びチーム TT2の資格が必要
					アドバンス (QF は、95%以上)	インターメディエイトで 90 パーセント以上の得点を 3 度達成したペア及びチーム TT2の資格が必要
各階梯には、シングル・ブレース・ペアー・チーム部門がある。(H=ハンドラー;D=犬)						
※ シングル(S) : 1(H) + 1(D) ※ ペアー(P) : 2(H) + 2(D)						
※ ブレイス(BR) : 1(H) + 2(D) ※ チーム(T) : 3名以上のハンドラーと犬によるチーム						
略号						
ジュニア(Juniors) : J ノービス(Novice) : N						
スターター(Starter) : ST インターメディエイト(Intermediate) : I						
ビギナー(Beginners) : B アドバンス(Advanced) : A						
サッシーシニア : 犬が 9 歳以上、または、ハンドラーが 65 歳以上						
ハンディダンディ : 犬もしくはハンドラーが障害を持つ(参加承認が条件)						
<p>※ポイント獲得後、昇級の基準に達成したチームは、その競技会より 6 カ月以内の競技会においては、現行のクラスにおいての出場を認めるが、その後の競技会においては必ず昇級するものとする。</p> <p>※ビギナークラス以上に出場し QF を獲得した場合は、スタータークラスにエントリーする事が出来なくなります。</p> <p>※イノベーションクラスは、昇格・QF に関係なく重複して出場することが出来ます。</p> <p>※各 QF は合計点ではなく、技術点・芸術点それぞれが、基準パーセント以上でなければならない。</p>						

リングサイズ（最大演技空間）

9m × 18mを標準サイズとし8m × 13m以上を確保できる事が望ましい。

国内において規定のリングが設定できない場合は、8m × 10mを最小リングサイズとする。

リングは演技空間から四方に1mの距離において、柵状のもので分離されなければならない。

ルーティンタイム

Juniors(J)	1分30秒～2分15秒	
Starter(ST)	1分30秒～2分15秒	
Beginners(B)	2分00秒～3分00秒	
Novice(N)	2分00秒～3分00秒	
Intermediate(I)	2分30秒～3分30秒	2013年秋よりルーティンタイム変更
Advanced(A)	2分30秒～3分30秒	2013年秋よりルーティンタイム変更
Sassy Seniors(SS)	1分30秒～2分15秒	犬が9歳以上、又は、ハンドラーが65歳以上

- タイムは犬かハンドラーが動き始めた時点から、双方の動きが終わった時点までを計測し、前後に10秒の誤差は許されるが、大幅な超過タイムは減点または失格となる。
- スタータークラスのトリートの提示については、ライブ・ビデオ双方共指でつまんで提示せず、手の平に乗せた状態で明確に提示する事。
- 同一ルーティンでの複数回出場を認めるが、1年以上に渡っての同一ルーティンでの出場は奨励しない。

出場資格

全ての犬種の6か月齢以上の犬に出場の機会が与えられるが、発情中の犬は原則として出場できない。（ただし、競技主催者の判断で、全ての演技が終了した後に審査する事がある。その場合も審査直前まで、本リンク・控えリンク内での練習その他は許可されない。）

Sassy Seniorsクラスのハンドラーと犬は他の科目に出場する事も出来る。

国内審査基準

技術点(10点)と芸術点(10点)の合計20点満点。

Technical Merit 技術点(10点)

難易度 (Difficulty)	3
構成要素 (Content)	3
完成度 (Execution)	2
滑らかさ (Flow)	2

Artistic Impression 芸術点(10点)

ルーティーンの内容 (Concept)	3
動性 (Dynamism)	3
デザイン (Design)	2
リズム (Rhythm)	2

減点

- ※ コスチューム/プロップの誤使用 (Improper use of Costume/Prop)
- ※ 吠え (Barking)
- ※ 身体的な強制 (Physical Manipulation)
- ※ ルーティンタイム (Routine Time)
- ※ 演技空間外に出る (HTM のみ)
- ※ (その他) 演技中の持来行為は、演技構成上必要と認められるものに関してのみ許される。有効とみなされない場合は、減点の対象となる。

失格

- ※ リングからの逸走
現行規定では、スター・ベギナー・ノビスにおいてのみ、終わりまでの演技を認めます。
- ※ 訓練用具 (食べ物、おもちゃ、ターゲットスティック、クリックカーなど) の使用、リング内での排泄、チョーク/スパイクカラーの使用 (会場施設内での使用禁止)、これらは直ちにリングから退場となります。
- ※ 排泄をしてしまった場合 (直ちにリングから退場)
- ※ 禁止事項違反者

禁止事項など

- ※ ハルター使用での演技は禁止。
- ※ チョークカラーやスパイクカラー装着での会場の立ち入り禁止。
- ※ フードや遊具などトレーニング用具や演技と関係ない全ての用具の使用は禁止。
- ※ 発光する物の装着
- ※ 犬のカラー・リング・ネイルカラーなどの禁止。
- ※ 犬に苦痛を与えたり、観客に不快感を与えるような用具や発生の禁止。
- ※ 演技の表現に必要な最小限のネックカラーやバックルカラー、アンクルバンド以外の犬への装飾品については、主催者においてその都度判断し禁止する場合がある。
- ※ 主審査員が審査 (会場) における諸問題、および、規定されていない部分など全ての権限を持って審査にあたり、コンペが参加者参加犬観覧者にとって好ましいものとなるよう努力する。
- ※ 装飾、小道具に生き物を使う事は禁止。
- ※ 使用可能エリア以外でのトリーツの使用

規定の補足

規定されていない事項について問題が生じた場合、ジャッジおよび競技会事務局の判断で決定します。

改定:2018年4月1日